

東員町地域公共交通計画の評価等結果(令和4年度)

目標	目標を達成するための取組		調査方法	達成状況・分析			評価・次年度に向けた課題や取組 ※評価：目標達成(100%以上)をA、目標値の90%以上達成をB、それ以外をCとした	備考	
	R3	R4		考察					
【基本目標1-1】 鉄道の維持・活性化	現在値	目標							
北勢線の利用者数(乗車人員)	2,551,724人	現状以上に増加	【事業1-1-1 北勢線の利用促進】 ・北勢線の利用促進を推進することにより、路線の維持、活性化を目指します。 ・北勢線事業運営協議会と連携した取り組みを実施します。 ・町内で行われるイベントなどに積極的に参加し、北勢線や三岐線を身近に感じてもらう取り組みを実施します。	運行業者への聞き取り	1,923,377人 (R3.4~R4.3)	2,084,178人 (R4.4~R5.3)	・昨年度と比べ、乗車人員全体では8.4%増加し、利用者別においても、通勤3%増、通学6.9%増、定期外15.9%増と、全体的に増加基調であった。この背景としては、新型コロナウイルス新規感染者数は昨年よりも大幅に増加しているものの、コロナ禍による減少要因よりも、行動規制緩和による増加要因が上回っていたためと考察。 ・北勢線、三岐線に対する支援を実施。	B	・新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかった北勢線の利用促進事業の内、サンタ電車や親子ツアーなどのイベント事業を3年ぶりに実施することができ、大変好評であったことを評価。次年度も引き続き、北勢線沿線市町や北勢線事業運営協議会と連携した取り組みや、町内イベントでの利用促進活動などを実施し、北勢線のさらなる利用増を図る。 ・次年度も引き続き、北勢線、三岐線に対する支援を実施。
鉄道(北勢線、三岐線)を利用している町民の割合	17.3%	現状以上に増加	【事業1-1-2 北勢線の維持】 ・北勢線沿線市町である桑名市、いなべ市と協力し北勢線の維持に必要な支援を実施します。 【事業1-1-3 三岐線の維持】 ・三岐線沿線市町である四日市市、いなべ市と協力し三岐線の維持に必要な支援を実施します。	—	—	—	—	—	まちづくりアンケート(令和7年度実施予定)で集計
【基本目標1-2】 バス、タクシーの維持・活性化	現在値	目標							
路線バスの年間輸送量(桑名阿下喜線)	38.0人/日	現状以上に増加	【事業1-2-1 路線バスの利用促進】 ・路線バスの利用促進を推進することにより、路線の維持、活性化を目指します。 ・交通事業者が取り組んでいる施策を住民などに情報提供します。	運行業者への聞き取り	35.3人/日 (R2.10~R3.9)	38.0人/日 (R3.10~R4.9)	・【桑名阿下喜線】新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年(51.6人/日)と比較し、令和2、3年は大幅に利用者が減少。(R2:38.0人/日、R3:35.3人/日)しかしながら、行動規制緩和による増加要因もあり、令和4年は基準値と同水準まで回復。 ・【イオンモール東員線】現状値である31.3人/日(R2)から大幅に増となり、コロナ禍前の水準(R1:63.1人/日)に戻りつつあり、行動規制緩和により、イオンモール東員の利用者が増加したことが大きな要因と考察。	A	・次年度については、鉄道、路線バスとの接続を調整したダイヤを決定し、10月から新ルート・ダイヤで運行を開始できるよう取り組み。 ・オレンジバスと運行区間の一部が重複するイオンモール東員線においては、オレンジバスと発着ダイヤを調整し、東員駅、イオンモール東員へのアクセスの向上を図る。
路線バスの年間輸送量(イオンモール東員線)	31.3人/日	現状以上に増加	【事業1-2-2 タクシーの利用促進】 ・障がい者のタクシー利用助成など、交通弱者がより利用しやすいタクシーサービスを提供することにより、維持、活性化を目指します。	運行業者への聞き取り	48.8人/日 (R2.10~R3.9)	47.2人/日 (R3.10~R4.9)	・コロナ禍で定着した新しい生活様式により、利用者が少なくなったためと考察。	A	
タクシー助成利用者数	418枚	現状以上に増加	令和3年度の実績(地域福祉課)	297枚 (R3.4~R4.3)	301枚 (R4.3~R5.3)		・コロナ禍で定着した新しい生活様式により、利用者が少なくなったためと考察。	C	・次年度も引き続き、障がい者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、タクシー利用助成を継続する。
【基本目標1-3】 持続可能な仕組みの構築	現在値	目標							
オレンジバスの収支率	13.7%	15%	【事業1-3-1 オレンジバス運営体系の改定】 ・オレンジバスの収支率は約14%しかなく、国からの補助金などで運行経費の約71%、残りの約15%は町費です。今後、運行経費増が予想されることから、運営収入増を図るための運営体系見直しを実施します。 ・割引制度の導入などにより、町民の費用負担が過度に重くならないよう考慮して実施します。	令和4年度の実績(政策課)	14.3% (R3.4~R4.3)	14.6% (R4.4~R5.3)	・運営収入が令和3年度と比較し222,790円増加し、オレンジバスの収支率は0.3%上昇した。(R3:11,107,311円、R4:11,330,101円) ・地域公共交通確保維持改善事業費補助金が令和3年度と比較し1,908,000円減少した影響が大きく、オレンジバス運行費用負担額は130千円増加した。(R3:7,175千円、R4:5,267千円) ・生活交通を考える会を5回開催。(令和4年度)	B	・運営改定に合わせて実施した「おかげ元氣バス事業」「未就学児の運賃無料」などの施策を継続するとともに、オレンジバスルート、ダイヤの再編など利用者の利便性を向上させる取り組みにより利用者増を図り、収支率のさらなる改善に取り組む。 ・生活交通を考える会において、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できていなかった、公共交通の利用啓発活動を数年ぶりに実施できたことを評価。次年度も引き続き、生活交通を考える会を開催し、公共交通の利用促進へつがる取り組みを検討し、実施する。
町のオレンジバス運行費用負担額	9,600千円	現状以下に削減	【事業1-3-2 生活交通を考える会の継続】 ・公共交通に係る各種事業の提案や実施を行うために、年数回開催している「東員町生活交通を考える会」を継続します。	令和4年度の実績(政策課)	14,109千円 (R3.4~R4.3)	14,239千円 (R4.4~R5.3)		C	向こう10年間は同水準の費用負担となることを踏まえ、目標値を見直す
【基本目標2-1】 交通結節点の利便性向上	現在値	目標							
町内鉄道駅の乗車人員(東員駅)	184,604人	現状以上に増加	【事業2-1-1 オレンジバスと鉄道とのダイヤ調整・案内の充実】 ・オレンジバスについて、鉄道駅における乗継の利便性向上を図るため、運行ダイヤの調整、案内の充実を行います。	運行業者への聞き取り	140,466人 (R3.4~R4.3)	155,584人 (R4.4~R5.3)	・間の補助を活用した取組で、東員町が中心となり、民間事業者と協力し、町陸上競技場をホームグラウンドに活動するサッカーチームの車両を作成しR4.4から運行を開始。ホームゲームの開始時刻に合わせてラッピング車両を充当するなど、サッカー観戦者が公共交通を利用するよう促進し、観光事業と連携した公共交通の利用促進施策を実施。	B	
町内鉄道駅の乗車人員(穴太駅)	126,968人	現状以上に増加	【事業2-1-2 オレンジバスと路線バスとのダイヤ調整・案内の充実】 ・オレンジバスについて、路線バスにおける乗継の利便性向上を図るため、運行ダイヤの調整、案内の充実を行います。	運行業者への聞き取り	101,708人 (R3.4~R4.3)	107,602人 (R4.4~R5.3)		B	・観光事業と連携した取組により、東員駅の利用者が昨年度より増加したことを評価。次年度については、鉄道、路線バスとの接続を調整したダイヤを決定し、10月から新ルート・ダイヤで運行を開始できるよう取り組み、乗継の利便性向上を図る。
町内鉄道駅の乗車人員(北勢中央公園口駅)	104,337人	現状以上に増加		運行業者への聞き取り	80,616人 (R3.4~R4.3)	85,764人 (R4.4~R5.3)		B	
【基本目標3-1】 オレンジバス再編	現在値	目標							
オレンジバス乗車人員	83,844人	現状以上に増加	【事業3-1-1 オレンジバスの再編】 ・オレンジバスの行き先がわかりにくいという声や交通空白地に対応するために、生活交通を考える会の議題としてわかりやすいルートを検討します。 ・昼便については、多くの居住地、多様な施設を巡回するルートとなっているため、南北線と東部線の役割分担を明確にした上で、利用者の行き先を考慮し、利用の少ない区間は廃止にするなど、利便性の高いルートに見直しします。 ・バス利用者乗降データを活用し、適宜利用者ニーズを把握します。 ・ルートの見直しに合わせて、鉄道、路線バスとの接続を調整し、ネットワーク全体としての利便性を確保します。	運行事業者による集計	80,092人 (R2.10~R3.9)	74,317人 (R3.10~R4.9)	・乗車人員について、目標値(R元:10~R2.9)と比較し、9,527人の減少となった。新型コロナウイルス感染症による利用者の減少分が約15%、令和3年4月から実施した運営改定による利用者の減少分が約8%と分析している。特に、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化により、通勤・通学の利用が回復してこそ、南北急行線(朝夕便)の減少率が大きい。	B	・沿線自治会とバスルートについて協議を実施するなど、利用者にとって利便性の高いルートへの見直しに向けた取り組みを進めていることを評価。次年度については、町の中心エリアへのアクセスを重視したルートや、鉄道、路線バスとの接続を調整したダイヤを決定し、10月から新ルート・ダイヤで運行を開始できるよう取り組む。
オレンジバスを利用している町民の割合	6.5%	現状以上に増加		—	—	—	—	—	まちづくりアンケート(令和7年度実施予定)で集計

東員町地域公共交通計画の評価等結果(令和4年度)

目標	目標を達成するための取組		調査方法	達成状況・分析			評価・次年度に向けた課題や取組 ※評価：目標達成(100%以上)をA、目標達成の90%以上達成をB、それ以外をCとした	備考
	R3	R4		考察				
【基本目標3-2】 新たな移動形態の研究・実現推進	現在値	目標						
新たな移動手段の取り組み事業数	0事業	1事業	期間中の取組実績	0事業 (R3.4~R4.3)	0事業 (R4.4~R5.3)	・経済産業省主催の地域のモビリティサービスを一線に考える勉強会や、デマンド交通を導入している愛知県豊明市での視察研修に担当職員が参加するなど、新たな移動手段についての調査、研究に取り組んだ。	C	・次年度も引き続き、東員町の地域特性に合った移動手段について調査、研究するとともに、デマンド交通の実証実験など、具体的な事業の実施に向けた検討を行う。
【基本目標4-1】 外出支援	現在値	目標						
おでかけ元氣バス事業の利用者数	—	年18,000人(延べ)	運営事業者による集計	16,656人 (R3.4~R4.3)	17,496人 (R4.4~R5.3)	・翌年度に75歳になる人については、申請などの必要はなく、75歳になる前年度の3月末までに、町からバスが送付される仕組みにより、昨年度よりもバスを持つ人が増加したことや、おでかけ元氣バス事業の開始から2年が経過し、制度が定着してきたことで、利用者が増えたと考察。	B	・次年度も引き続き、高齢者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、おでかけ元氣バス事業を実施するとともに、高齢者の外出を促すためのバスとして、オレンジバスの運賃半額だけではなく、さらなる特典や利用事業の拡大を検討する。 ・次年度も引き続き、小人運賃(100円)、未就学児の運賃無料を実施する。
【基本目標4-2】 公共交通の魅力発信	現在値	目標						
運転免許証の返納者数	98人	現状以上に増加	いんべ警察署への聞き取り	119人 (R3.4~R4.3)	109人 (R4.4~R5.3)	・高齢者の外出、社会参加の促進及び健康増進を目的とし、令和3年4月からの運賃改定に合わせて実施した、おでかけ元氣バスの提示によるオレンジバスの運賃半額を継続して実施。	A	・次年度も引き続き、高齢者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、おでかけ元氣バス事業を実施するとともに、高齢者の外出を促すためのバスとして、オレンジバスの運賃半額だけではなく、さらなる特典や利用事業の拡大を検討する。
利用促進活動の実施回数	0回	2回以上	期間中の取組実績	2回 (R3.4~R4.3)	3回 (R4.4~R5.3)	・町内で開催されたイベントに公共交通ブースを出展し、オレンジバス、北勢線の利用促進活動を実施。 ・オレンジバス車内に設置したデジタルサイネージで、TOINマルシェ及びコスモまつりで募集したオレンジバスめりえのデジタル展示を実施。 ・公共交通の相互利用の促進を目的に、北勢線のサンタ電車とのイベント時に合わせオレンジバスの無料乗車券を発行し、配布。(利用枚数：南北線49枚、東部線5枚)	A	・新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかったオレンジバスの利用促進活動や、北勢線の利用促進事業(サンタ電車)と連携したオレンジバスの無料乗車券の取り組みを実施できたことを評価。次年度は桑名市市民の無料乗車券を発行する予定であり、さらに広域的な取り組みになることを期待する。 ・令和4年4月から民間事業者と協力し、行政情報と町内の民間企業の広告を放送するデジタルサイネージをオレンジバス車内に設置。サイネージの設置料として運賃収入以外の収益が増加するとともに、行政情報の放送やめりえのデジタル展示など利用者への情報提供や利用者の増加に資する取り組みに積極的に活用していることを評価。 ・次年度については10月にオレンジバスのルート・ダイヤの再編を予定していることから、広報紙やホームページなどを活用し、新しいルート・ダイヤに関しわかりやすく情報提供を行う。
【基本目標4-3】 快活性の向上	現在値	目標						
キャッシュレスや感染症対策など快活性を向上する取り組みの数	0回	1回以上	期間中の取組実績	1回 (R3.4~R4.3)	1回 (R4.4~R5.3)	・統一QRコードであるJPQRの利用を申請し、オレンジバスへキャッシュレス決済を導入する準備は進めたものの、最大手キャッシュレス決済事業者であるpaypayのJPQRへの参画の目的が立っておらず、実施に至っていない。 ・オレンジバスの感染症対策についての動画を作成し、バス車内に設置したデジタルサイネージで放送した。バスにおける感染症対策のPRを行ったことで、利用者の不安解消に一定の効果があったと考える。	A	・キャッシュレス決済の導入については、引き続きpaypayのJPQRへの参画状況を確認し、paypayが利用できるようになり次第、オレンジバスへJPQRの導入を進める。また、交通系ICについては三岐鉄道北勢線へ導入される場合、その導入時期と合わせてバスにも導入できるように取り組む。 ・「感染症対策の実施」については、マスク着用の考え方の見直しや、令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴い、事業の重要性が低くなることから見直しを検討する。